

コロナ禍における団体活動アンケート 結果報告

コロナ禍で社会は変貌し、地域、社会の多様化したニーズに応えるために、市民活動、支え合いはより一層必要となると感じています。そこで、新型コロナウイルスの感染拡大の影響についてアンケートを実施いたしました。ご協力いただいた皆様には、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

アンケート実施内容

実施期間 令和2年6月10日～7月15日

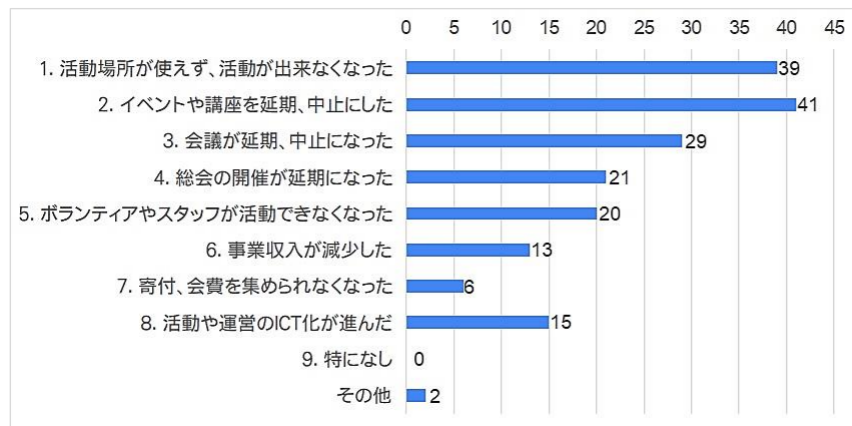
対象者 Mサポ利用登録団体及び市民活動団体

回答数 48

回答方法 窓口 WEB(Google フォーム) mail FAX

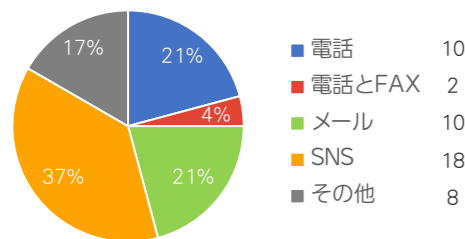
※自由記述は一部抜粋。

Q1. 新型コロナウイルスで、どのような影響がありましたか？ (複数回答可)



特に影響が多かったのは、会場の使用の制限に起因するものでした。緊急事態宣言下では、公共施設の利用が休止され、開催を断念せざるを得ない団体や、自粛を判断する団体等、活動を見合わせている状況であることが窺えます。

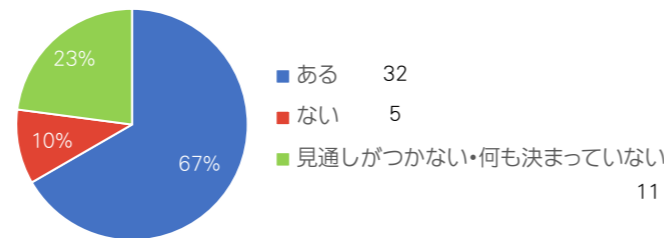
Q2. 現在の団体内での主な情報共有の方法を教えてください



Q4. どのようなイベント、活動を計画していますか？ また、実施される場合の工夫があれば教えてください

- ・ランチと食品配布
- ・LINE ブログ、Instagram、Facebook で、動画配信
- ・類似団体との連携活動
- ・子育てサロンをZoomを使って開催
- ・LINEを活用した10代のLGBT相談
- ・外出できないママたちのオンライン座談会を新規計画。クラス開催はzoomを使いオンライン授業に切り替え。
- ・年間事業計画の中にある年3回の研修会を開催することができるよう計画を立てたり、個人でできるポラを集めて、福祉作業所にお送りしたりできるとよいと計画中です。
- ・講座、映画会を予定しています。県・市のガイダンスに従って実施する。

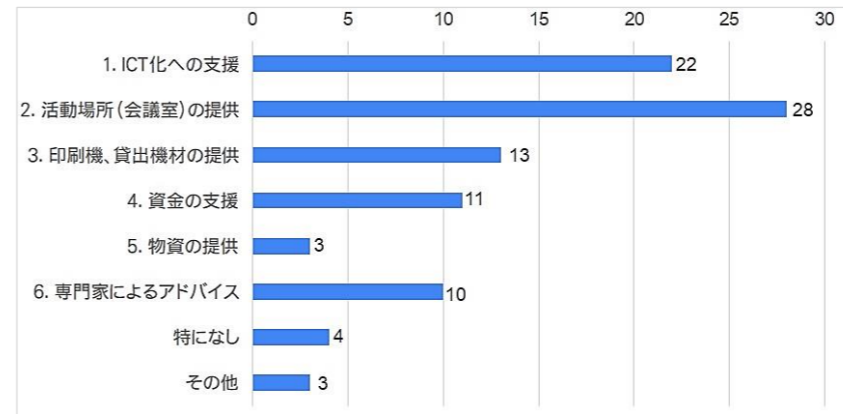
Q3. 今後計画しているイベント、活動はありますか？



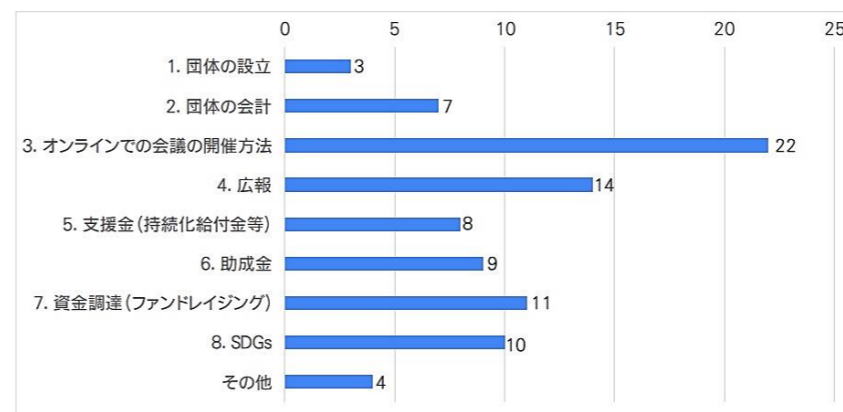
Q5. 差し支えなければ、イベント、活動を実施できなかった理由を教えてください

- ・場所が使えない。3密。年配が多い。運営費の確保。
- ・会場が使用出来ない
- ・外出自粛で、それぞれの家族に高齢者や病気の人がいて感染を避ける為に集まるのを中止せざるを得なかった
- ・コンサート会場が密になってしまうため。
- ・公民館などの利用休止
- ・病気の会であり、免疫を落とす治療をしている患者さんもいるのでリスクが大きいため、コロナ禍ではリアルでの会合ができなかった。
- ・子どもたちを集めてのイベントだから

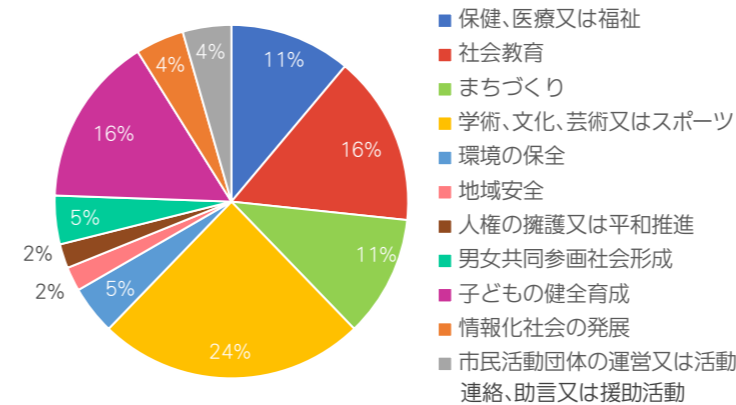
Q6. 今後の活動において特に必要な支援について当てはまるものを選択してください (複数回答可)



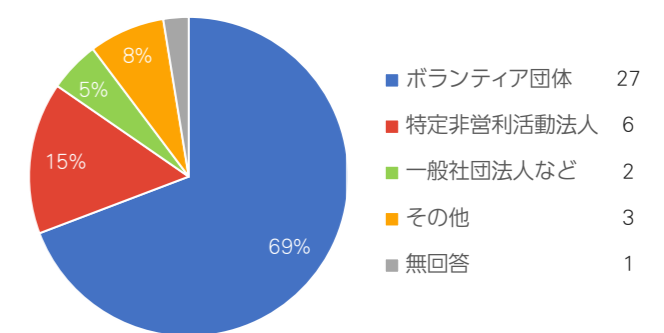
Q7. 今後、Mサポでオンラインセミナーを開催したときに希望するテーマを教えてください (複数回答可)



Q9. 団体の活動分野 (主な活動を1つ選択)



Q10. 団体の種別



Q4、Q6、Q7の回答を見ると、オンライン化(ICT化)の傾向や支援を希望する声が多い反面、Q8ではオンライン化が難しいといった声もあり、オンライン化に対応できる団体、対応できない団体の二極化が予想されます。

Q8. 今後の活動において、団体内での課題はありますか？

- ・新しい生活様式を、現実の活動にどうに合わせるか？ 悩んでいる。
- ・運営費(ニーズの高まり、参加者数に比例し運営費が倍増)若い世代の参加募集、仕事の偏り
- ・状況の変化の見通しが定まらず、長期計画が困難
- ・会員、支援者、連携先の拡大
- ・メールやオンライン会議のできない高齢者対策
- ・共に「ふれあい」ながら「関わり」「つながって」いくことを大切にしてきたので、新しい生活様式の中で「ふれあう」ということをどのように捉えていったらよいのか。
- ・自分達がやっている事を、無理の無い範囲でいかにして小さな活動で良いから繋げて社会貢献するか？
- ・コンサートの準備をしても、また開催できなくなる恐れがあることを頭頭に置かなければいけないこと。
- ・コロナ禍ではzoom等のwebを利用してのミーティングやリモート交流会は必須になってくると思うが、役員も高齢化していて意欲がないメンバーもいる。また対象となる会員やその他の患者さんでもwebを使える人と使えない人(ネット環境なども含めて)がいるため開催が難しい。

今回のアンケートは、緊急事態宣言の解除後、群馬県で「社会経済活動再開に向けたガイドライン」が策定され、公共施設も6月から「新しい生活様式」を取り入れながら、徐々に利用を再開した時期に行いました。例年であれば、多くの団体が総会を終え、新年度の事業をスタートする時期でもあります。今年度は、「新しい生活様式」を取り入れた活動への対応に迫られている様子がアンケートの結果からわかります。Mサポが実施できる支援として、オンライン対応へのきめ細やかな支援、「新しい生活様式」に対応した事業実施の提案や事例の紹介、資金の支援情報の発信などを考えています。継続的にサポートをしながら、活動団体の皆様とともに、長期にわたるコロナ禍を乗り越えたいと考えております。